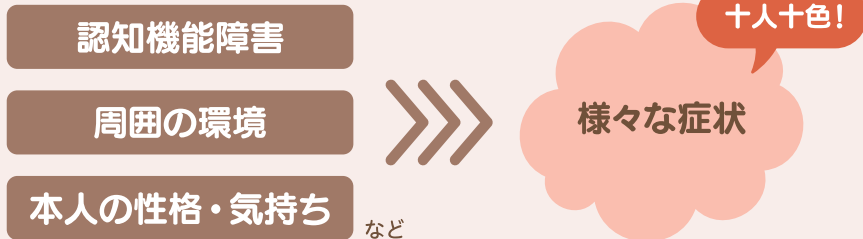


周りの人に知ってもらいたいこと

認知症についての正しい理解が、本人へのより良いケアにつながる場合があります。さらに理解を深めたいときには、家族勉強会(⇒12ページ)や、認知症サポーター養成講座、講演会(⇒22ページ)などにご参加ください。

本人の行動の背景となる理由や気持ちを考える

認知症の症状は、認知機能障害に加えて、周囲の環境、本人の性格や気持ちなどが影響して現れます。よって、周囲の環境や関わり方が大切です。



周りから見たら一見変わっているように見える行動でも、本人には当たり前のことであり、もっともな理由があります。よって、本人の言動を否定せずに、本人の行動の背景にある理由を考えて、気持ちに寄り添った接し方を心がけることが望ましいとされています。

あるAさんの事例では・・・

症状	背景	対応例
<p>同じことを何度も聞く</p>	<p>背景と理由をさぐると</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害 <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害により話したことを忘れる 環境 <ul style="list-style-type: none"> 雑音がある中での会話 思い出せる手がかりが周りがない 気持ち <ul style="list-style-type: none"> 純粹に知りたい コミュニケーションをとりたい どうして良いのかわからず不安 	<p>症状への対応方法を考える</p> <p>静かな場所でゆっくり話をする</p> <ul style="list-style-type: none"> メモ <ul style="list-style-type: none"> 今日は10時にデイサービスに行く予定です <p>返事をメモして、目に見える場所においておく</p>

症状は十人十色であるため、全ての人に当てはまる「正解のケア」はありません。日々、本人と接する中で、それぞれの正解を模索していきます。



本人の言葉

できることを先回りして奪わないで

認知症と診断されても、すぐに何かが変わるということはありません。周りの人と、症状に対してどう工夫するかを考えれば、困ることはなくなります。ただ、周りの人の心配や優しさから、失敗をさせないように先回りをしてしまって、一人で出かけるのを禁止したり、財布を取り上げてしまったりすると、本人が自信をなくしたり、気持ちを不安定にしてしまうのではないかと思います。「失敗しても怒らないでください」「行動を奪わないでください」



丹野 智文 さん
39歳の時に若年性認知症と診断。ある一人の認知症の先輩との出会いをきっかけに、人との出会いの大切さに気づき、現在はおれんじドア実行委員会の代表を務める。令和5年公開の映画「オレンジ・ランプ」の主人公のモデルとなる。



令和3年11月
認知症講演会映像



令和5年11月
認知症講演会映像

家族の言葉

自分を大事にしないと、いいケアはできない

前向きに楽しく生きるためには、「介護をサボる」ことも大切だと思います。

私の主人は寝たきりですが、私がめげないのは、自分の時間をとつても自由に使えるからです。主人がデイサービスに行く時は、お友達と食事に行って楽しくお喋りをします。ショートステイに預ける時には、日帰り旅行に行くこともあります。主人には悪いと思っていません。なぜなら、自分を大事にしていると、すぐ彼にもいいケアができるからです。自分を大事にしてしまないと、いいケアはできないのだと、経験上思います。



令和4年9月
認知症講演会映像

